



初代
大島 精一郎 氏

自転車組み立ての修行で、東京に出たのち帰郷し、大島農機入社。後に高田市議員、議会議長を歴任、大島農機株式会社 第三代社長。大島農機の自転車部門を独立させ、大島自動車商会を設立。1978年逝去(81歳)。



2代
大島 精次 氏

大学卒業後、2年間大島農機に勤務。後、大島自転車商会第2代社長に就任。現大島グループの始まりとなる。1984年上越ケープルビジョンを創業。2014年「前島密賞」受賞。2019年逝去(83歳)。

大島農機(創業1917年/大正6年)
(1910年頃撮影)



大島グループ
代表 大島 誠

世代交代

私は今年7月で65歳になる。つい先日40歳を迎え、上越青年会議所(JC)を卒業したばかりと思っていたが、なんと高齢者と呼ばれる歳になった。お陰様で心身ともに健康であり、(迷惑かもしれないが)あと10年位は皆さんと一緒に仕事をさせて頂き、また地域のお役にも立ちたいと思っている。しかし私も生身の人間、いつ何時状況が変わるとも限らない。これからの5年間は今まで以上に世代交代とグループの進むべき方向性を意識した経営の舵取りを行っていきたい。

厳しい現実 人口減少と高齢化の意味するところ

大島グループの営業の主戦場は上越市である。上越市の人口は毎年1%ずつ減少し、特に20歳から65歳までの就業年齢人口の減少が著しい。(本誌裏表紙のグラフ参照)25年後の2050年を見ても高齢人口の減少はわずかであるが就業年齢人口は33,000人規模、30%減少する予測である。単純に考えると企業の数も10社に3社は働き手不足で消滅する。また、20歳以上の消費人口は20年後には20%の減少が見込まれており、消費力の面から見ても企業の売上は大幅に減少する事になる。更には、政府は最低賃金の大幅上昇を産業界に呼びかけており、この流れは大手企業と中小零細企業の賃金格差、首都圏と地方との賃金格差に拍車をかけ、地方からの人口流出が加速することになるだろう。地方都市の生き残りは一段と難しくなる。

地方都市の企業 ワクワクする未来

では地方都市で企業は生き残れないのか? いやいや これからが地方都市の企業がその魅力を増し 輝き始め ワクワクする時代になるだろう。しかしそれは経営が楽になるという意味ではない。私たちが「地方都市における企業の在るべき姿」をよく理解し、事業の焦点を定め

覚悟を決めて、努力し行動することで実現させていくものである。事業規模を競ったり、流行りのビジネスに手を出す事ではない。他社が真似のできない事業、やりたがらない事業・上越の特徴を生かした事業・小規模でも質の高い事業・首都圏や海外からのお客様が訪ねて来たくなる様な事業など 個性的で独創的な市場を開拓していくことが生き残りの為の絶対無二の条件である。

「個性的で独創的」とは

百年料亭宇喜世と上越タイムス社は存在そのものが独創的である。武蔵野酒造は完全小ロットでオリジナル酒を醸造する四季蔵という個性と独創性を身に付けた。大島自動車販売は一見どこにでも在る自動車整備工場であるが「リース車両の整備」という他社が受注を嫌がる分野に積極的に進出し個性的な経営を実現した。パーツプロダクションはポスティングという地味で面倒くさい作業をシステムに仕上げたことで他社が真似のできない事業を確立しつつある。ジェイズ・クリエイションは有名な神社仏閣との関係性が深く、この特徴が今後独創的なマーケットを創造すると期待される。まるごとメディア新潟はフリーペーパー「まるごと」シリーズを県内3地域で展開している。この事業展開を独創的なビジネスに磨き上げられるかが今後の焦点であろう。昨年のガイドブックで記載した井手塾は数年間苦しみ抜いた末、「カープス」そして「また明日」「久遠チョコレート」という個性と独創性を身に付けた。今後の展開が楽しみである。

そして「浄興寺大門通りスクエア」の開発と整備は、夜の街仲町に日中の賑わいを創り出し地元はもちろんであるが外貨を稼ぎだす仕掛けの第一歩である。今年は旧鈴木旅館の開発と旧ワタナベ美容室の開発を進め、上越地域で初めての民間による観光開発・地域開発の提案を世に問う。

リーダーの条件

このように「個性的で独創的な市場」とは特別な事ではなく巨額な投資が必要なわけでもない。通常の業務の中やその周辺に見え隠れしているのである。その個性や独創性に気付き、面倒くさくても難しくても「磨き上げる覚悟」があれば地方にある中小企業は十分に生き残れる。また自社の個性や独創性に気付き、磨き上げに挑戦する覚悟をもち努力する者が新しいリーダーに成長していくと期待する。

これからの3年間 「個性的で独創的な市場開拓」に挑戦しよう

本稿の冒頭 これからの5年間で世代交代の道筋を付けたいと述べた。その前半3年間は各社の経営体質を強靱化するために「個性的で独創的」な市場開拓に全員で取り組んでいこう。先ずは自社の事業内容や人員配置に例外を持たず目を向けよう。新たな事業開拓に向けては既存の事業の廃止や撤退もあるだろう。新しい方針を打ち出すと必ずや社内に反対の声が起こる。それは変化への恐れの声であり、企業衰退へのエールである。「覚悟を持って努力する」とは自分との闘いを意味する。ライバルは今の自分自身である。

代表 大島 誠

大島グループ 2025年の行動指針

経営の基本方針

- 1 収益性と社会性が両立する経営を実践する **バランスのとれた経営**
- 2 個性的で強靱な独創的市場を開拓する **独創的な経営**
- 3 進取性と堅実性を兼ね備えた地方発の異業種企業集団へと成長する **躍動する経営**

大島グループが目指す企業の姿

- 1 働く喜び・生きる喜び・成長する**喜びを実感できる企業**を目指す
- 2 社員と家族の**生活の向上**と心身の**健康を増進させる企業**を目指す
- 3 地域を愛し、地域に愛され、**地域の誇りとなる企業**を目指す

中期行動テーマ (2023年から2025年)

- ◆グループ内企業の事業分野を検証し、合併や廃業、既存事業の統合や廃止、新規事業の立上げ、資本の整理を大胆に行う。
- ◆地域の人口減少や経済的衰退に影響されないよう外国と日本首都圏と上越の価格差を正しく把握し、「外貨獲得」の仕組みを創り上げる。
- ◆地域の人口減少や経済的衰退を逆にとったビジネスも模索する。
- ◆企業活力研究会の目的を、「各社の業績向上、次世代経営層の育成、社内環境整備にある」と意識し、近い将来確実に訪れる世代交代を想定した役員・中堅社員の研修の場とする。

今年のメインテーマ

- ◆引き続き、皆でハラスメントの無い働きやすい職場環境創りを目指す。また指導とハラスメントの違いを理解し、上席者は臆する事無く指示指導し 指導を受けた者は素直に学び 自分自身や同僚、会社の成長をお互いに喜びあえる社風を醸成しよう。
- ◆大島グループも年々多様な人材と一緒に働く機会が増える。障害のある方と、病気を治療しながら働く方と、親の介護をしながら働く方と、外国人と、高齢な方と、また遠隔地でテレワークする方と等々 様々なケースが生まれてくると思う。お互いに対する理解を深め、チームとして最高のパフォーマンスが生まれるよう努力しよう。
- ◆人間の能力や才能も筋肉と同じで、負荷を掛けないと成長しない。学びや目標設定において今より少し大きい負荷を掛け「自己の成長」、「組織の成長」を目指す一年としよう。
- ◇「人に直に会う」「自分で体験する」「現地を自分の目で見る」リアルを大切にしよう。
- ◇会社の個性や独創性に一層の磨きをかけ やるべき事を怠らず 堅実で確実な利益を確保しよう。(経常利益率5%)
- ◇「浄興寺大門通りスクエア」の開発と賑わい創りには総ての企業に関りを持てる。また興味のある社員は積極的に関りを求めて欲しい。質が高く収益性の有る誰もがワクワクする事業を推進しよう。
- ◇大島グループのイメージ、各法人のイメージ向上を戦略的に行い、「意識の高い企業」との取引を開拓し、「意識の高い人材」を獲得しよう。

「ターゲット5」の実現に向けて

- 1 精度の高い事業計画を立案し、実行・検証・行動の修正を経て事業目標を達成する
- 2 キャッシュフローの健全化が経営の根幹であることを共通認識する
資金計画・返済計画を毎年更新する
- 3 事業計画立案に際しては「ターゲット5」の達成を目指す

経常利益率	5%以上
株主配当率	5%以上
社内の事業や慣例を取りやめる	5つ以上
- 4 月次の試算表を社内で作成し、翌月第5営業日までに社長および本部に報告する
- 5 毎月 経営会議 (役員会) を開催し、事業目標達成に向けて絶えず行動改善を行う

全員研修について

- 1 心と身体の健康な生活についての研修
- 2 ハラスメントに関する研修
- 3 発達障害に関する研修
- 4 お金と人生設計に関する研修

あなたが豊かでワクワクする人生を送るために VOL.2 (還暦を過ぎて 今分かってきたこと)

1 挨拶する	大きな声ではっきりと おはようございます いらっしやいませ ありがとうございます
2 元気に笑う	「笑う門には福来る」 幸せだから笑うのではない、笑うから幸せがやって来る 意識して笑おう
3 感謝する	私と言う存在は 私以外の総ての人との関係性で成り立っている。総ての存在に感謝すればいつも謙虚でいられる。他人の幸せをうらやむことなく穏やかな気持ちでいられる。
4 瞑想する	1日5分でもいい ゆっくりと息を吐き 「何も考えない時間」をつくる心が健康になる 身体が健康になる 思いが実現する
5 祈る	祈りの力は強い 自分の幸せを祈る 同じように他人の幸せを祈る
6 言葉 (ことだま)	言葉は自分である 人は言葉で考え、言葉で伝え、言葉で動く 言葉を選び会話をする 言葉を選び文字を書く
7 奉仕する	自分が生きている社会に対して、義務を少しだけ超えて奉仕する。 自分より立場の弱い人の為に少しだけ無理をして奉仕する。 社会のみんなが幸せにならないと本当の幸せはやってこない。

1~7の総てが 特別な才能を必要としない。素直に信じて 実行するだけである。
1年後に 5年後に 10年後に 大きな成長を実感する。

代表 大島 誠